

今後の町立幼稚園及び小・中学校のあり方に関する意見交換会について

年	月	日	曜日	時間	場所	対象者	内容	参加者数
<b>(教職員)</b>								
4	10	11	火	15:30～16:30	湯河原小学校職員室	湯河原小学校教職員	説明及び意見交換会	24人
	10	13	木	15:30～16:30	湯河原中学校職員室	湯河原中学校教職員	説明及び意見交換会	29人
	10	21	金	15:30～16:30	吉浜小学校職員室	吉浜小学校教職員	説明及び意見交換会	25人
	11	17	木	15:30～16:30	東台福浦小学校職員室	東台福浦小学校教職員	説明及び意見交換会	14人
<b>(保護者等)</b>								
4	10	20	木	19:00～21:00	防災コミュニティセンター205会議室	湯河原中学校保護者	説明及び意見交換会	6人
	10	25	火	19:00～21:00	防災コミュニティセンター205会議室	吉浜小学校教保護者	説明及び意見交換会	16人
	10	27	木	19:00～21:00	湯河原小学校体育館	湯河原小学校保護者	説明及び意見交換会	7人
	11	7	月	19:00～21:00	東台福浦小学校体育館	東台福浦小学校保護者	説明及び意見交換会	13人
<b>(自治区役員)</b>								
4	11	17	木	19:00～21:00	防災コミュニティセンター205会議室	奥湯河原・温泉場・宮上・宮下・城堀・門川区役員	説明及び意見交換会	22人
		18	金	19:00～21:00	防災コミュニティセンター205会議室	鍛冶屋・吉浜・中央区役員	説明及び意見交換会	8人
		21	月	19:00～21:00	防災コミュニティセンター205会議室	吉浜・川堀・福浦区役員	説明及び意見交換会	11人
<b>(自治区内住民)</b>								
4	11	28	月	19:00～21:00	宮上会館大会議室	奥湯河原・温泉場・宮上区内住民	説明及び意見交換会	2人
	11	30	水	19:00～21:00	城堀会館大会議室	城堀区内住民	説明及び意見交換会	4人
	12	1	木	19:00～21:00	宮下会館大会議室	宮下区内住民	説明及び意見交換会	6人
	12	2	金	19:00～21:00	門川会館大会議室	門川区内住民	説明及び意見交換会	6人
	12	6	火	19:00～21:00	鍛冶屋会館大会議室	鍛冶屋区内住民	説明及び意見交換会	2人
	12	9	金	19:00～21:00	文化福祉会館大会議室	吉浜区内住民(東台福浦小学区内)	説明及び意見交換会	4人
	12	12	月	19:00～21:00	防災コミュニティセンター205会議室	中央区内住民	説明及び意見交換会	3人
	12	14	水	19:00～21:00	川堀会館大会議室	川堀区内住民	説明及び意見交換会	9人
	12	15	木	19:00～21:00	福浦会館大会議室	福浦区内住民	説明及び意見交換会	10人
	12	19	月	19:00～21:00	文化福祉会館大会議室	吉浜区内住民(吉浜小学区内)	説明及び意見交換会	9人
合計(延べ人数)								230人

## 「今後の町立幼稚園及び小・中学校学校のあり方に関する意見交換会」での意見内容

### 1 活力ある幼稚園、小学校及び中学校について

- ア 小規模校に活力がないとは感じない。
- イ 先生の数に対し、児童の数が少ないのだから、行き届いた教育ができる。
- ウ 活力を保つために、人数が少なくなることを回避するという意見には反対だ。
- エ 少人数の方が、一人ひとりが活躍する機会が増え、むしろ、活力があると感じている。
- オ どうして、児童数が減ると活力を維持するのが難しいのだろう。児童数が減れば、先生が個々に対して、きちんと目を向けられる、子ども達が抱えている問題、学習面でも向き合いやすい。
- カ 子ども達が互いを認めあえる、地域とのつながりが深い等、小規模校の良さをギリギリまで残してほしい。10年後の人数でも少人数の良さは続けられる。
- キ 「差のない教育」といわれるが、「差」ではなく、それぞれの良さがあると、捉えたい。

### 2 魅力ある湯河原の教育、幼稚園、小学校及び中学校について

#### (1) 本町独自の教育メソッドについて

- ア 活力ある学校は学習内容の充実。自然体験も大事だが、ひとりに1台のパソコンが配られているので活用してほしい。ネットへのアクセス制限が湯河原は強いと聞いた。例えば、国際交流ができるとか、東京、沖縄、北海道の子供と交流できたらいい。実体験プラス、機器を幅広く使いこなせたらすごく魅力的だ。
- イ 湯河原の子供たちのICT技術はとても高いと感じている。子ども達に投げかければ、教師が思う以上に湯河原の魅力を発信できると思う。
- ウ 学校間でICTの活用に差があるように感じる。
- エ 先生の年齢も幅広い、ICTに関し習熟度、使用に差がないだろうか。大変かもしれないが果敢に挑んでほしい。格差を減らしてほしい。
- オ 湯河原町独自のメソッドACTについては知らなかった。とても良い取り組みをされているので、もっと広く発信してほしい。

#### (2) 地域との連携・体験学習について

- ア 学校が地域との繋がりを大事にしていること、素晴らしい取り組みをぜひ、発信してほしい。自分の子供もいろいろな体験をさせてもらった。湯河原の強みだと思った。
- イ 今、東台福浦小学校だけしかしていないが、漁業体験を全町で体験させる。海、山、温泉がある湯河原の魅力を全面に発信していく。
- ウ 湯河原にはこれだけの産業があるのだと改めて思った。子どものころから、湯河原町の産業を体験し、盛り上げてくれたらよい町になると思う。

- エ 郷土の特色に触れる、郷土について知る機会は大切。地域、保護者と協力して、子どもを育てたい。
- オ 子どもの人数が少ないなら、地域の方と一緒に合唱、合奏すればいい。運動会を3校一緒にやるのもいい。学年間の交流だけでなく、地域の方と交流でき、「学校間で差がなく」経験ができる。子どもが家族以外の大人と接することで、自分を見守り、支援してくれる大人が地域に存在することを身をもって知ることができる。
- カ 体験から学ぶことは多い。子ども達にとってどんな体験がいいのかを検討してほしい。また、子ども達にも、何がしたいのか聞いてほしい。
- キ 町おこしのイベント、湯河原を盛り上げるような企画をさせてほしい。子ども達に成功体験をさせてあげたい。
- ク みかん狩り、みかんの苗木を育てるなどの体験をさせたい。急斜面を考えると、子どもの安全を考え躊躇もするが、自然から学ぶことは多い。
- ケ コロナの影響もあり、やっさ祭り、鹿島踊り、浦安の舞などに出てくれる方が少なくなっている。具体的に、子どもが参加できる方法を示し、推進をしていただきたい。何等かの形でお祭りに参加してもらいたい。

### (3) 学校給食の提供の推進について

- ア 中学校給食を早く始めていただきたい。
- イ 食べ盛りの子の弁当が大変そうだ。栄養が偏る心配のある家庭もあると思う。
- ウ 中学校給食は女性が働きやすいという面だけでない。事情のある家庭もあり、昼食を見て可哀そうだと子どもが言っている。みんなが平等に食べられる給食にしていきたい。
- エ 中学校の給食を自校方式で、とあるが、将来310人しかいないところにどの程度の給食室を建てるつもりなのか。別の形なら、給食はいいと思う。東台福浦小学校をなくすなら、東台福浦小学校を使った給食はできないか。
- オ 小学校の給食は地域と連携し、地産地消の食育がなされている。各学校で学校なりの給食・食育を自校方式で提供されているのは湯河原町の素晴らしいところだと思う。中学校でも、地域の特産物を生かした給食を食べることは教育という部分で重要だと思う。安心して子供を産み、育てられる町とアピールできる。
- カ 中学校給食は残念な結果になっているが、これからは、一歩ずつでいいので、計画し、みんなに知らせながら進めてほしい。
- キ お弁当をもってくるのが負担な子どもがいる。中学校でも給食を始めて欲しい。

### (4) 安全・安心な学校づくりについて

- ア 小さいときから、心、命についての学びに力を入れてほしい。2013年の事例を風化させない取り組みとしてどんなことがされているのかが、とても大事だと思う。湯河原町だから説得力をもってできることだ。
- イ 中学校として、先ず、大事なものは心の教育。いろいろなところに居場所がある、活躍できると思える機会を増やすことが大事になる。学校の行事をふやすことは難し

いが、地域行事に参加し、そうした中で心が育つと考える。

ウ 心の教育を町の教育に携わる人が同一の思いをもって行う、継続して、より強固にしていくという視点を中心にしてほしい。

エ 子ども達の抱える問題、背景は様々で学校だけでは解決できないことが多い。他機関との連携、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーの配置をお願いしたい。

オ メンタルケアを手厚くしてほしい。(教師も含め)

カ 命との向き合い方、自分との向き合い方、そういう学びを深められたらいいと思う。それは、多分、一生懸命頑張っている先生方にもいい影響があると思う。先生も子供と一緒に成長する、そういう視点で少し気楽に楽しんで出来たらいいと思う。

#### (5) 特別支援教育の充実について

ア 県立小田原養護学校の湯河原校との連携が特色の1つになる。専門的なサポート、作業療法士さんからの指導などを期待する。湯河原町には、療育の専門施設がないので、湯河原校の専門の方に活躍していただきたい。

イ 「ことばの教室」は湯河原小学校に常設だが、通わせられない保護者がいる。常設ではなく、移動教室にしたい。

ウ 発達検査が必要な子どもに、中々対応できていない。町で対応し、安心して学習できる状態にしたい。

エ 障がい児介助員の配置は良い。それでも、人員が足りないことがある。

オ 小学校1年生から登校できない子どもがいる現状では、教育支援教室のような受け皿、仕組みが必要。

カ 不登校の児童・生徒の居場所が、(地域や)学校に必要。

キ 国際教室を作り、支援が受けられるようにしてほしい。

#### (6) 既存の学校の特色について

ア 東台福浦小学校は東台福浦小学校しかしていない漁業体験など特徴のある魅力のある学校だと思う。もっとPRしていければ児童数も減らずにすむのではないか。

イ 東台福浦小学校の小学生と福浦幼稚園の園児とは相互に交流がある。行き来をしながら良い学校環境になっていると聞く。これも教育の一つの手立てだと思う。

ウ 子供会が減っていく中、東台福浦小学校の児童は地域行事に参加する率が高い。地域の大人の世話になっている、という感謝の気持ち、意識が高い。

エ 東台福浦小学校に子どもを通わせていて、小規模校の良さを感じている。上の子供たちは別の場所で育て、3人目で湯河原に越してきたので違いをととても感じる。先生と保護者の距離が近い、他学年とも、幼稚園とも地域との交流もある。子どもが大人を信頼しているのが良くわかる。小規模校ですごく良い結果を出していることを評価してほしい。

オ 東台福浦小学校で実現できている良い教育、良い環境をなくさないでほしい。

カ 東台福浦小学校は、この資料では、10年後60人、小さいコミュニティだが、良い

教育を実践しとても良い学校なので、これまで以上に新しい形で突破したい。クラスの子供が2人になって、バスケットができなくても、全学年でバスケットをする、それでよい。

キ 東京のいわゆるマンモス校から、移住し、1クラス9人の東台福浦小学校に通わせている。学校の元気さ活力は9人の方が元気になっている。友達とのかかわり、他学年との関係性も東京以上に深い。

## (7) その他

ア 教職員の自己研鑽支援はありがたいが、希望をきいていただき、教職員に寄り添った研修になればいいと考える。

イ 幼稚園・保育園小学校との連携についても加筆をしてほしい。小学校ではスタートカリキュラムをしている。保護者の安心につながる。

ウ 教職員から見た学校のあり方に関する考え方は素晴らしく共感する。

エ 個々の学習レベルに合わせて、学校内で移動できると子ども達も楽しいのではないかな。部分的にでも、そういう自由度があったら活力ある学校になると思う。

オ ひとりの人としての自立、自発性を軸に、促してほしい。子どもたちが自分でルールを作る、守る、自律することが将来役に立つと感じる。

カ 自分で考え、行動できる子に育ててほしい。自発的にやりたいことを見つけられる、子ども達主体の教育を。子ども達がワクワクするような学校生活、子どもを起点に考えたら、魅力ある学校が見えてくると思う。

キ 中学校の部活動は、団体競技だと定数を整えることが難しいものもあると聞く。夢を追いかけられるような部活動を続けさせてあげたい。

ク コロナで運動会が縮小している。子どもの楽しみを減らしているのではと思う。

ケ 先生方は、一生懸命、楽しい授業をしてくれている。しかし、規律訓練型の従来の教育がベースにあって、その上に楽しさがトッピングされている感じだ。運動会を見ても、規律正しい「回れ右」とか「右向け右」みたいな風習が、必要なのだろうか。

## 3 「幼稚園、小学校及び中学校の適正規模・適正配置」について

### (1) 適正規模について

ア 1クラスの人数は20人から25人位が良い。教員は子どもをよく見ることができ、手厚い指導ができる。

イ 教職員の意見を実現させるために、1クラスは20人前後とし、地域に根ざした教育をする。少子化を利用し、小規模のクラスで湯河原らしさを出してほしい。

ウ 適正人数は少しずつ下がってきている。10年後に、現在の文部科学省の数値がそのままとは考えにくい。1クラスの人数が20人前後になる可能性もある。湯河原町として、子ども達のために、そこまで見通した配置は考えられないものか。

エ 適正人数は過去の経緯から、5～6年で見直しがされている。ならば、今の人数で、1校3学級になるという数字より、予測したデータで適正配置を考えた方がいい。

オ 今の段階で、今の基準で10年後を考えるのはどうなのか。

- カ 外国語教育では、たくさん外国語に触れ、たくさん話すことで力がつく。東台福浦小学校のクラスは20人前後なので、とても力がついているのを感じる。
- キ 小規模校に何ら問題を感じない。大規模校だろうが小規模校だろうが教員の多忙に変わりはない。小規模校はむしろ小回りがきき、職員一丸となって取り組む良さがある。

## (2) 小学校 3校

- ア 学校は、地域に根ざしたもので、子どもだけのものではない。地域の方の思いは大切にされるべきである。それぞれの場所に3校残したい。
- イ 学校が1校なくなることは、それだけで、町の魅力が失われる。
- ウ 地域ごとに小学校があれば、放課後に子どもが遊べる。関わりあえる良さがある。
- エ 学校は近くがいい。特に低学年にとっては通学が大変になる。送迎や、ひとりで歩いて登下校する子どものことが心配だ。
- オ 学校の規模が大きくなると、運動場、体育館等の施設を使う順番、時間等が限られる。
- カ 10年後、小学校を1校に統合すると、大人の数(教師の数)は減り、物理的に手厚いとは言い難い。子どものことを考えたら3校残すのがいい。
- キ 小さな学校になっても、特色を生かした教育をし、存続させてほしい。
- ク 住んでいる地区に限らず、行きたい学校に通える仕組みを作ればよい。それぞれの学校で特色ある取り組みをしているので、それを生かせば、学校の数を減らさずに済む。
- ケ 学校は地域の防災拠点。(福浦会館は海に近く老朽化している)
- コ 規模を縮小し、時代に合った魅力ある校舎、教育環境を、3校、整えることが必要。学区の見直しもしつつ、ある程度均等に、児童が通えるようにしてほしい。
- サ 東台福浦小学校を建てる時、土地を提供された方がいる。小学校のために、みかん畑、遊び場をつぶして学校を建てた。子どもの数が減っても、存続させたい。
- シ 学校を統廃合してしまって、子どもを受け入れる学校施設、キャパシティがないという状態は避けなければならない。大変だが、学校の数や規模は維持した方がいい。
- ス 中学校の教員から見て、東台福浦小学校や片浦小学校のような小規模校からくる子どもの良さを感じている。3小学校から中学校に来る、出会いがあり、新しい人間関係ができる、違う場所があるという視点も組み込んでほしい。
- セ 湯河原小学校、吉浜小学校は、そのまま、存続できると思うが、東台福浦小学校は、特例校の様な形ででも、存続させてほしい。

## (3) 小学校 2校

- ア 3つの小学校を1校にするのは、一足飛びだと思う。まずは、吉浜小学校と東台福浦小学校を統合する位が落としどころで、最初のステップかと思う。もちろん、東台福浦小学校を残せるものなら残したい。
- イ 町に1校しか小学校がないと、いじめや、学校に行きづらい状態になったとき、逃

げ場がない。

ウ 集約して、学校を減らしたいということなら、単純に東台福浦小学校がなくなるのだろうか。合併すべきとは思いますが、やはり、地域ごとに学校を残してほしいという思いは、当然あるだろう。

エ 以前にも単級の学校はダメだ、運動会ができないとかクラス対抗ができないなどでダメだと言われた。資料の10年後の数字で見ると、数字的には、2クラスずつの学校が2校存続できると思う。できるなら、小学校2校にしてほしい。

#### (4) 小学校 1校

ア この資料の適正配置で考えると、もう小学校1校、中学校1校にせざるを得ない。そういう方向性を示されていると思える。

イ 町の財政を考えると、3校を建て替えるのは無理があると思う。小学校1校も検討しないといけない。

ウ いずれ吸収合併のような形にせざるを得ないと思う。東台福浦小学校なり、中学校なり売り払って、財源にするしかないと思う。

エ 小学校は1校で、スクールバスを出し、保護者用の駐車場も確保してほしい。

#### (5) 小中一貫校の検討

ア 小中一貫校を検討されるのはいいと思う。

イ 小中学校の一貫教育がいいと思う。施設一体型なのか、分離型なのかは別だが、調査研究していくべきだと思う。

ウ 一貫校にすると、教員の人数が増えるメリットがある。科目別に先生が変えられることもできるだろうし、選択科目のような幅が広げられたらいい。

エ 小中一緒のとき、体育館や校庭は別がいい。

オ 小中ずっと一緒に

#### (6) 単級学校のデメリット（複数級ある学校の良さ）

ア 学校が単級だと、子ども達の人間関係が固定化される。いろいろな子どもに出会い、友だちが増えることは子ども達にとって魅力。複数級あり、クラス替えができるようにしたい。

イ 教職員にとっても、複数級ある学年の方が仕事をしやすいと感じる。

ウ 複数級あり、子どもの数が多いと揉まれる良さがある。揉まれ慣れていないと、中学校に行くとき、壁を感じ、行けなくなってしまう子も少なくない。

#### (7) 福浦幼稚園について

ア 福浦幼稚園は、在園児童数が10名位で、適正人数から逸脱している。本筋では語れない数字だと思う。これをどう維持するのか、また維持しなければいけないのか、打ち出してほしい。存続してほしいという気持ちは大きいと思うが、どう対応するのか。

- イ 福浦幼稚園の児童が増えるように、幼保一体型の検討をしてほしい。
- ウ 私立の幼稚園と公立の幼稚園が東西にあるが、いずれどちらかがなくなると考えている。
- エ 幼稚園も統廃合に向け、(保育園と両立しうる中で)、どのような形であるのがよいのかという話し合いに発展することを期待する。
- オ 保育園との差別化を明確にしながるとあるが、カリキュラムに沿ってやるということだけであれば、保育園と変わりはない。
- カ 一般的に幼稚園と保育園の違いを知らない方が多いと思う。その点を説明してほしいし、将来的に幼稚園はいらないと思う。
- キ 幼稚園の多様化するニーズに対応したサービスのところに、現状やっていないのにこの表記をするのかわからない。今後、長期休業中の5時までの保育預かり、3歳児入園を希望したい。
- ク 福浦幼稚園の給食化は小学校の給食と栄養価の違いなど問題もあるのだろうが、お金のかかることではないのでしていただきたい。幼稚園の魅力になる。

#### 4 資料・素案の作成・意見交換会について

##### (1) 夢の持てるプランを(子ども達にどんな学習を提供するのか。)

- ア 10年後の教育といっても、今できていること、やっていること、これからちょっとやりたいと思う事が書いてあるとしか正直、見えない。今より面白い教育ができるというポジティブなアピールができないものか。少子化で苦しいけれど、建設的な、子供たちに良い教育をさせたいという思いを載せてもらえないか。この説明では、「もう、しょうがないんです。」としか聞こえない。例え、統廃合であっても、もっとキラキラしたプレゼンをしていただきたい。
- イ できるかどうかは別にして、これから10年が楽しみでわくわくするような、本当に楽しいだろうというプランを描いてほしい。
- ウ 小学校を何校残すかが、議論の焦点のようだ。もっと大事なことは、小学校でどういう学びを提供するかだと思う。資料で10年後と言われる途端、誰にとっても当事者でない他人事。自分事としてとらえるために、目指す学校を来年どうするか、3年後どうするのか、5年後どうするのかだと思う。
- エ 10年後は結構先のこと、長期計画を定めたら、中期計画、短期計画を作る、どういうステップで10年後を作るのか道筋も見えるようにしていただきたい。

##### (2) 選択肢を提示し、意見を求める

- ア 小規模校、大規模校のメリット、デメリットの記載はあるが、同じように一貫教育のメリット、デメリットも示すのがいい。そういう選択肢を知らない中では、学校を残してほしい、統合しか意見が出ないのではないかな。いろいろな選択肢を示された上で、意見が出やすい形で聞いてほしい。
- イ 東台福浦小学校を廃校にし、湯河原小と吉浜小の2校にするのか、東台福浦小学校は年数的にまだ使えるので残して、湯河原方面に1校建てるのか、とか真ん中あたり

に1校建てるのかとかいくつかの例を示して、みなさんに意見を求めた方が意見を言いやすい。

### (3) 現状の分析について

- ア 児童、生徒数の推計は今後を検討するうえで非常に重要な土台となるものだ。過去からの推移、移住者の数等も知りたい。
- イ 児童数の減少、適正人数の配置から統廃合の結論に結び付けるのは訴えが弱い。既に東台福浦小学校は適正人数以下である。学校に複数級が必要なら、10年後も湯河原小学校と吉浜小学校は存続可能とみる。(1校にするのであれば)財政的な数字がなければ、納得は得られない。
- ウ 魅力ある湯河原の教育・学校ではこうしたいというものが部分的にできているところだろうが、現状の分析はどこにあるのか。ここはできていて、ここはできていないという表記をしてほしい。
- エ 魅力ある湯河原の教育として、10項目挙げられている。やっていること、やりたいがやれていないことを分けて記載して欲しい。あり方を策定したから新しくするものではなく、教育は続いているもの。継続項目、今取り組んでいることがわかるようにしてほしい。

### (4) 素案作成からいろいろな立場の方の意見を反映させてほしい

- ア 冊子、素案は学校教育課で話し合われたものだろうが、作成する段階で、女子だったり、当事者に近い若い世代の方はいるのだろうか。この意見交換会に並んでいる方を見ると、ある程度の年齢の男性の方、そのひと握りの方の発言だったり、意見だったり色が濃く出ていると思った。幅広い、年齢を問わずいろいろな方の意見を取り入れた素案作りをしてほしい。
- イ 事務局も固定観念に縛られている。素案作りから、熱意を持った人に参画してもらうのが理想だ。
- ウ 少人数でも残してほしいという意見が多かったと思うが、3校を残す方向にはならないと思いながら話している。資料を作り、素案を作っているのが事務局で、特別な学校に変革しようなどとの考えはないのだろうか。
- エ 外部の識者、専門の方にもこういう構想に関わっていただくことは意義があると思う。

### (5) 子ども達の意見を計画に

- ア 今の子供たちが、どういう教育を受けたいのか、どんな学校になったらいいと思っているのか子ども達の意見を聴くプロセスを踏んでほしい。
- イ 子供たちの意見を吸い上げる方法も考えて欲しい。子ども達に関わることは、その中に子どもたちが参画してもらうことが大切だと思う。いろいろな自治体で、子どもの権利条約が定められているが、子どもを一人の人格として認めたい。10年後、さらにその考えが定着していなければならない。

ウ 大人たちは少人数がいい、ひとり一人に丁寧に向き合ってもらえると考えるが、子どもの中には、狭いコミュニティが辛い、好きなことを共有できる仲間がいないと感じることもある。大人の考えていることと、子どもの考えていることは違うので、子どもの意見を聴いてほしい。

エ 児童生徒が一人1台のタブレットを持っているので、それを使って、発信、意見を吸い上げることは可能だと思う。

## (6) 意見の求め方・対話について

ア この資料を見ると、教育委員会は統合ありきと読み取れる。

イ 「現状通り配置することは難しい」とは統廃合としか受け取れない。2クラスの2校だと人数が少なすぎると言われる。ならば、小学校は1校にしたいということなのに、そこは、ふわっとさせている。皆さんの意見を聴いてと言われるが、みんなの意見が3校残すだったらそうなるのだろうか。

ウ 教育委員会は、もう1校に統合したいと考えているのであれば、そう提示し、意見を聴く方が建設的だ。漠然とした問いかけでは何にフォーカスして何に意見を言ったらいいのかわからないと強く感じる。

エ 少子化でもう1校にしたい、どんな学校を作りますかと聞かれたほうが良かった。

オ こんな教育がいいのでは、こういう学校がいいのではという意見に対し、否定的な意見が返ってくる、跳ね返されるという印象を受けた。そういうつもりではないのだろうが、そう感じた。教育委員会の方が遅くまで頑張っていることは知っているが、私たちも子供のこと、教育のこと、町のことを考えている。しかし、距離が遠く、一緒に考える感じではない。もっと互いに言い合える場にしてほしい。

カ 意見交換会に3回出席してわかったことは、少子化で学校の数を1校に集約してしまえば「差をつけようがない」から「差がない教育」ができるとの考えのようだ。そう考えているのに、何も決まっていない、住民の意見を聴きたいと言われても本心はそうではないとの印象だ。何も決まっていないと言われるのはおかしい。

キ 意見交換会の場はありがたいが、ここで意見を言っても、きっと通らないと思う。

ク 小学校・中学校のあり方の着地点はもう決まっていて、私たちはまた、それに乗せられていくのだろうと思っている。湯河原中学校の移転のときもそうだった。

ケ 意見交換会ではなく、聴取会。

コ 保護者の方から、建設的な意見が出ていると思うが、国の基準でこうなっている、できないと言われればそれで終わり。保護者の希望に蓋をしてしまう、そこで止まってしまう、「国がこうだから、それは無理です。」ではなく、湯河原だけでなく、日本中の保護者が望めば変わることもあると思う。今すぐに実現してくださいという事ではなく、町民の意見として書き留めてほしい。

## (7) 意見交換会での意見を明らかにしてほしい

ア 意見交換会で出た意見を関係者だけでなく、みんなに示してほしい。出席した私たちにも知りたい、わかるようにしていただきたい。

イ 町全体でアンケートを取ったりできないだろうか。少子化の中での魅力ある学校教育、統廃合ともなれば、町全体で考えればいい案も出るだろう。

ウ 子ども達の意見も聞いてほしい。小さい子供を持つ親世代、学生などにも意見を募り、これは無理だとか、採用したいとか丁寧に回答してほしい。パブリックインボルブメントを。

## (8) その他

ア 「学級間の協力があり、良い意味での競争意識」とはどうなのか。既に、「個別最適」「協働」をテーマに教育が動いている。「協働」の意識を高めるという考えがあっ  
ていい。「競争」ではないと思うので、再検討していただきたい。

イ 10年後であれば、学習指導要領の改訂がある。個別最適な学び、協働的な学びが  
より推進されるであろうし、ウェルビーイングといった概念も取り入れた方が良い  
のではないかな。

ウ 地域に根付いた云々は重要なところだと思う。地域共同型の小規模校の強みとあ  
るが、良い取り組みがあるので、具体的に発掘したらどうなのかと思う。

エ 魅力ある学校について全部できればいいのだろうが、両立が難しいものもある。湯  
河原町として1本ないし2本の柱を決め、そこに向けてどうしようというところか  
らではないだろうか。

オ 湯河原小学校と吉浜小学校の教育格差をどのようにとらえているのか。ここに、そ  
の考えも記載していただきたい。

カ 少なすぎる人数の1クラスと2クラス3クラスある学校では差があるということ  
か。であれば、湯河原小学校と東台福浦小学校では差があるという事なのか。

## 5 意見交換会の持ち方・周知について

ア 住民の方の意見を聴きたいと言われるが、本当に皆さんの意見を聴きたいなら、参  
加しやすい時期、時間帯を設定すべきだ。

イ 小学校・中学校の保護者ばかりに案内が来るのが不思議だった。もっと小さいお子  
さんをお持ちの方が関心を持つはずだ。

ウ 小さいお子さんを持つ方は、夜間は参加が難しいと思う。例えば、土曜日の昼間、  
小さいお子さんを連れて誰かが子供を見てくれる環境を作ってほしい。そして、も  
っとざっくばらんに、対面ではなく、意見を出しやすい環境を作ってほしい。

エ 夜7時、まさに、子供に夕食を食べさせたり、お風呂に入れたりする時間、参加は  
難しい。個人的には休日の昼間が参加しやすい。

オ 保育園・幼稚園児の保護者、小さい子供を持つ親世代の意見こそ吸い上げて欲し  
い。

カ ハードルが高いかもしれないが、オンライン、Zoom会議で、意見交換会が家でも  
見られ、意見が送れるような方法も考えられる。

キ 小さいお子さんをお持ちの方に充分情報が届いているのだろうか。

ク 参加者が少なすぎる。これだけの人数で集約していいのだろうか。もっと人数を集

めない意見交換会として成立しない。

ケ 意見交換会の周知を回覧板でしたが、回覧板は実感としてあまり見られていない。周知の方法も考えられるべきだ。

コ 中学校の保護者の参加者が一人もいない。広報・周知の失敗なのか。

サ 中学校の保護者さんは、高校のことを考えている。10年後の小・中学校に関心がない。正直、小学生の保護者も、関係ないと考えているようだ。

シ 各小中学校の保護者別、地域ごとに説明会を実施されるとのことだが、折角、それだけの回数を実施されるのであれば、全部、同じ時間帯にすることはない。都合のつくどの地域の説明会に参加してもいいわけだし、午前、午後、昼、など時間帯に設定する配慮がほしい。

ス 湯河原小学校での意見交換会のお知らせをもらったが、そこには、湯河原小学校の意見交換会のことしか書いてなかった。同様に、吉浜小学校、東台福浦小学校の日程もあれば、別の日なら行けるといふ人はたくさんいたと思う。それだけでも全然違う。

セ 今、子どもがいる世代でも、新しい学校の恩恵は受けない。今の高校生や大学生などの世代が子供を持ち、再編された学校にいくとなると、学生に意見を聴くことも視野に入れたい。

ソ 意見交換会に人を集めることについて、世代別というか、対象別に説明会を分けることもいいと思う。

タ 保護者の集まりの場に出向く、学校のPTA総会の時に合わせて説明させてもらうなどの方法もある。

チ 意見交換会は大事だと思う。もっと参加したくなるような告知、わくわくするようなものにしたらいい。

## 6 その他

ア 全国的に、少子化ではあるが、町として子供を増やすことも考えなければいけない。

イ 人口減少は仕方がない、それに合わせて、教育も縮小して統廃合しようという事ではないと思う。

ウ 湯河原の教育は魅力的な取り組みをされている。子育て世代に向け、外部にもっと発信し、移住してもらいたい。

エ 移住の際にネックになるのはやはり教育。移住と教育、医療と交通は連動することが大事。

オ 学校を学校だけでなく、地域のコミュニティの場にする方法もある。湯河原町は高齢者の方も多いので、授業のスペース、住民の方が使えるスペース、高齢者の憩いの場などを校舎の一部を使ってするのもいいと思う。

カ 東京の中学校で校舎の中に、老人ホームかデイサービスの老人施設があり、一緒に生活、活動しているところを見た。湯河原でも、高齢者が増え、子どもの数が減り、空き教室が増えるのであれば、そうした取り組みはできないか。

- キ 通信高校の学校と連携し、いわゆるスクリーニングを湯河原で行うのはどうか。
- ク 学校の先生の多忙をどう軽減できるのだろうか。保護者や地域の人が協力できることはあるのだろうか。
- ケ 中学校の部活を外部の専門の方にお願ひし、先生は校内の学習に力を入れる状況にはならないのか。
- コ 先生の多忙を解消するのは、教員の数を増やすこと。でもそれには決まりがあるし、財源もあるので、学校現場、教育委員会が考えなければならない。
- サ 教員の時間外勤務はすごく多い。教育委員会は先生の補助をするものを増やし仕事を減らすなどして方策を建てなければならない。適正規模を考える前に、先生の働き方改革をしなければならない。
- シ 教員一人が35人を見るのであれば、町として、加配があるとか、サポートがあるとよい。小学校段階では基礎基本を身に着けることが大事。
- ス 中学校を移転することは考えられないか。
- セ 津波の心配、かつ国道をまたぐことで交通事故も懸念される中学校が今後、どうなるのかが知りたい。
- ソ 自分の子供は湯河原中学校には行かせたくない。他の中学校を探そうという気持ちだ。
- タ 湯河原中学校は湯河原高校時代、波浪警報で休校になった学校だ。そこに中学生が通うことが理解できない。
- チ 地震等で中学生が屋上に避難し、津波が来た。それからどうするのか。孤立するのではないか。雨だったり、冬だったりした時の対策はあるのか。
- ツ 湯河原中学校の耐震工事の問題のとき、プレハブ校舎はとても環境が悪いので、湯河原高校の間借りと答えたのに、ふたを開けたら湯河原高校の買い取りになっていた。当時の目先のことだけのまとめ方に納得がいかない。
- テ 中学校の移転の際には何の説明もなかった。
- ト コロナの感染対策で学校行事がなくなったり縮小している。学校の教員の働き方改革の問題もある。それはきちんと整理し、保護者に伝えて欲しい。